

公表	事業所における自己評価総括表
----	----------------

○事業所名	児童発達支援センター つぼみ			
○保護者評価実施期間	2025年 11月 1日 ～ 2025年 11月 28日			
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	34	(回答者数)	22
○従業者評価実施期間	2025年 11月 1日 ～ 2025年 11月 28日			
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	16	(回答者数)	13
○事業者向け自己評価表作成日	2025年 12月 12日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的にやっている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	こどもと保護者のニーズを把握して、支援計画を作成し、専門的な療育を行っていることが強みだと思われる。また、研修などにより一層の療育への充実を図ることが期待できる。	・リハビリ計画書を必ず提出してもらい参考になっている。 ・参加できる研修会には参加している。	・内部研修などで研修で学んだ事を周知していく。
2	こどもの様子を保護者にしっかりと伝えていたり、保護者の相談やペアレント・プログラムなど保護者支援、地域支援を行っている。	・わかりやすく、ありのままの様子を報告する。 ・出来ていないことも伝える	・ペアレントプログラムの対象者の拡大等、地域支援、保護者支援に力を入れていく。
3	保育所等訪問支援を始め、他施設や学校とも連携を取れているので、並行通園児や進学する園児も安心して通うことができる。	・特定相談員との連携を図り、並行通園の施設にも情報を提供していく。	・保育所等訪問支援に配置できる職員を配置する努力をしていく。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	・施設のキャパシティがあり、きょうだい児の受け入れなどで上限が決まってしまう。	・建物の構造的な問題	・場所を借りたり、時期をずらすなどイベントの開催を工夫する。 ・夏休み期間に保護者通園日を設定して制限を掛けずに開催する。
2	・他のこども園や保育園との交流が難しい児童も多く、中々地域交流などが出来ていない。	・併用通園児が多く、集団での活動が苦手な子どもや医療ケア児も増えており地域交流が難しい状況。	・保育園側から交流の要望があった場合はしっかりと対応していく。
3	・重症心身障害児または医療的ケア児に対しての専門的な知識、技術が不足している部分がある。	・昨年度までは発達障がい専門の施設だったので、ニーズが少なく、機会も無かった。	・医療的ケア児・重症心身障害児の研修・勉強会等には積極的に参加していく。